

第1回 丹波市まなびの里づくり協議会（摘録）

開催日時	令和4年10月13日（木）午後7時30分開会～午後9時35分閉会
開催場所	氷上住民センター 大会議室
出席者	<p>【委員】 岡田龍樹委員長、萬浪佳隆委員、荒木伸雄委員、細見宏幸委員、 伏田雅子委員、増南文子委員、角悟委員、山本龍之委員、酒井礼子委員 中瀬まさ子委員、松井宜子委員、蔦木伸一郎委員、和田八壽夫委員、 松本佳則委員、久下悟委員</p> <p>【事務局】 細見正敏副市長、井尻宏幸まちづくり部長、福井誠まちづくり部次長、小畠崇史 市民活動課長、前田大志地域協働係長、見田晋介生涯学習係長、堂本祥子人権啓 発センター所長、宮野真理文化・スポーツ課長、畑田久祐生涯学習推進員、足立 大希生涯学習係員 足立勲教育部次長兼総務課長、池内晃三教育部次長兼学校教育課長、山内邦彦社 会教育・文化財課長、足立恵一社会教育・文化財係長</p>
欠席者	【委員】 山内佳子副委員長、出町慎委員
傍聴者	なし
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱書の交付 3. 副市長あいさつ 4. 委員紹介【資料①】丹波市まなびの里づくり協議会委員名簿 5. 職員紹介【資料②】丹波市まちづくり部職員名簿 6. 丹波市まなびの里づくり協議会の役割 【資料③】丹波市まなびの里づくり協議会設置条例 7. 委員長及び副委員長の選出について（設置条例第5条） 8. 委員長・副委員長挨拶 9. 協議会の進め方について 【資料④】丹波市まなびの里づくり協議会に関する運営要綱（案）について 【資料⑤】丹波市まなびの里づくり協議会に関する傍聴要領（案）について 10. 報告事項 丹波市生涯学習基本計画（後期計画）について（別冊資料） 11. 講話 テーマ「地域における社会教育の推進について」 天理大学人間関係学科生涯教育専攻 岡田龍樹 教授 12. 協議事項 （1）生涯学習を実践に生かす地域づくりの推進について （2）丹波市生涯学習基本計画に基づく市の生涯学習関連事業について 【資料⑥】丹波市生涯学習基本計画に基づく市の生涯学習関連事業（まちづく り部・教育部関連）基本目標別 【資料⑦】丹波市生涯学習基本計画に基づく市の生涯学習関連事業調査書

	<p>【資料⑧】市の生涯学習関連事業への意見書</p> <p>13. 第2回協議会開催日程</p>
資料	<p>【配布資料】</p> <p>資料① 丹波市まなびの里づくり協議会委員名簿</p> <p>資料② 丹波市まちづくり部職員名簿</p> <p>資料③ 丹波市まなびの里づくり協議会設置条例</p> <p>資料④ 丹波市まなびの里づくり協議会に関する運営要綱（案）について</p> <p>資料⑤ 丹波市まなびの里づくり協議会に関する傍聴要領（案）について</p> <p>資料⑥ 丹波市生涯学習基本計画に基づく市の生涯学習関連事業（まちづくり部・教育部関連）基本目標別</p> <p>資料⑦ 丹波市生涯学習基本計画に基づく市の生涯学習関連事業調査書</p> <p>資料⑧ 市の生涯学習関連事業への意見書</p> <p>別冊資料 丹波市生涯学習基本計画（後期計画）</p>
会議摘録	
発言者	発言の要旨
事務局 副市長	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委嘱書の交付</p> <p>代表受領 岡田龍樹委員</p> <p>他の委員については机上配布</p>
副市長	<p>3. 副市長あいさつ</p> <p>皆様には、夜分お疲れのところ、第1回丹波市まなびの里づくり協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>このたびは、協議会委員にご就任を賜り、深く感謝申し上げます。</p> <p>本協議会では、平成27年4月に策定し、令和2年度に改定いたしました丹波市生涯学習基本計画につきまして、委員の皆様それぞれのご経験やご見識、また、多角的な視点から生涯学習機会を提供する多様な主体との協働による効果的な学習活動の推進等についてご協議いただき、ご指導を賜りますようお願いいたします。</p> <p>さて、丹波市を取り巻く社会は、人口減少を伴った超高齢化に起因する地域の活力の低下や、核家族の増加に伴う地域とのつながりの希薄化、新型コロナウイルス感染の影響など、多様なニーズや複雑な地域課題も生まれています。こうした課題に対応していくためには、地域社会を構成する市民一人ひとりが地域の担い手として力を発揮することが必要です。</p> <p>丹波市では、市民が主体的に学び、学んだ成果をまちづくりの実践に生かし、実践の中から生じた新たな課題へと挑戦する“知識が循環する生涯学習”のまちづくりを推進することとしております。</p> <p>この生涯学習基本計画は、丹波市自治基本条例に規定する「市民主体の原則」「補完性の原則」「協働の原則」によって、市民と行政が役割を分担しながら生涯学習に取り組む、このような自治の基本原則を「計画を貫く考え方」と捉</p>

	<p>え、令和6年度までの10年について、本市のめざす生涯学習施策の基本理念やそれを実現するための基本的な目標を示しております。</p> <p>委員の皆様には、丹波市の生涯学習施策の効果的な推進、学習を活かしたまちづくりの推進等について検討をお願いするわけですが、市民の生涯学習活動がさらに活発になり、学びにあふれた地域と感じていただけるよう、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>大変長期にわたりお世話になりますが、何卒よろしくお願いを申し上げ、開会のごあいさつとさせていただきます。</p> <p>ますので、よろしくお願ひします。</p> <p>4. 委員紹介 資料①に基づき自己紹介</p> <p>5. 職員紹介 資料②に基づき職員自己紹介</p>
事務局 市民活動課 長	<p>6. 丹波市まなびの里づくり協議会の役割</p> <p>それでは、次第6 丹波市まなびの里づくり協議会の役割につきまして、事務局からご報告いたします。</p>
事務局 生涯学習係 長	<p>資料③丹波市まなびの里づくり協議会設置条例をご覧ください。</p> <p>(設置) 第1条で、丹波市生涯学習基本計画の達成に向け丹波市まなびの里協議会が設置されてます。</p> <p>(所掌事務) 第2条各号に規定されています通り生涯学習活動の様々なことについて協議し検討いただく会であります。</p> <p>(組織) 第3条に規定しています委員をもって組織しています。</p> <p>(任期) 第4条任期は2年として再任は妨げない。</p> <p>(委員長及び副委員長) 第5条に規定</p> <p>以下、会議庶務について説明</p>
事務局 市民活動課 長	<p>7. 委員長及び副委員長の選出について (設置条例第5条)</p> <p>設置条例第5条に基づき委員長・副委員長を選出させていただきます。どのようにしたら宜しいでしょうか？</p>
委員	事務局に一任します
事務局	事務局一任の声が上がりましたが、宜しいでしょうか？
委員	異議なし
事務局	それでは、事務局から推薦という形でお願ひしたいと思ひます。委員長に岡田龍樹委員、副委員長に本日欠席ですが、山内佳子委員にお願ひしたいと思ひます。
委員	異議なし

<p>委員長</p>	<p>8. 委員長挨拶</p> <p>只今、委員長に選出されました岡田です。先ほど自己紹介の時に言い忘れておりましたが、この会議8月30日に予定されておりましたが、私がコロナの陽性になりまして本日に延期となりました。</p> <p>申し訳ございませんでした。</p> <p>私も丹波市に色々なことを学ばせていただいております。こうして、皆さんにご意見をいただきながら、私も学んでいきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>事務局</p>	<p>よろしくお願いいいたします。ここからの進行につきましては岡田委員長にお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、次第の9、になります。協議会の進め方についてご協議いただきます。資料4会議の進め方についてお諮りいたします。</p> <p>本日の議事においては、特段、個人情報特定されることはないと考えますので、公開とさせていただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>委員長</p>	<p>本日の会議は公開といたします。</p> <p>続いて、資料5丹波市まなびの里づくり協議会に関する傍聴要領をご覧ください。ご意見のある方はございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>なし。</p>
<p>委員長</p>	<p>これも、お認め頂いたということで、承認いたします。資料4及び5の(案)を削除してください。</p> <p>それでは、次第10の報告事項 丹波市生涯学習基本計画(後期計画)について、でございますが、これは事務局の方から報告願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>(計画策定の目的) 社会情勢の変化や多様なニーズ、複雑な地域課題も生まれる中、市民一人ひとりの個性や多様性が尊重され、地域の担い手としてその力を発揮することが必要と考え基本計画を策定し、その期間を、平成27年度～令和6年の10年間とし、現在令和2年～令和6年の後期の期間となっております。</p> <p>(計画の策定体制) 後期計画の策定にあたり、市民意識調査を令和元年度に実施した。集計したものがP5～P15にあります。</p> <p>(後期計画の施策の方向性) 生涯学習について、国の政策においても、地域における社会教育の目指すものは「人づくり・つながりづくり・地域づくり」という形で重要性が示されています。また、丹波市においても、以前から、持続可能なまちづくり・地域の活性化というものを必要な活動として考え、本計画</p>

	<p>の基本目標として「まなび人を増やそう」「まなび力を育てよう」「まなび里をつくろう」を策定している。これを推進していくため、後期計画の施策の方向性を丹波市における「めざす市民像」を達成するには、どのようにすべきか、また、知識循環型生涯学習による「持続可能なまちづくり」の実現に向けた施策を前期計画から後期計画へ、具体的な方向を定めています。</p> <p>(基本構想) 基本目標は、「まなび人を増やそう」「まなび力を育てよう」「まなび里をつくろう」の三本柱は後期計画においても推進していく計画です。また、後期計画においては、先ほど申し上げためざす市民像についても、計画として定めています。P20 にあります【めざす市民像】【めざすまちの姿】という形で定めています。</p> <p>(計画の進捗管理) P33 では、計画の実現に向けた具体的な数値目標を定めております。「まなび人を増やそう」1年以内に生涯学習を行った割合を令和6年度において70%を定めています。次に「まなび力を育てよう」、学の活動で身についた知識や技能をを生かしたいと思う市民の割合を令和6年度において40%を定めております。「まなび里をつくろう」では、学びやすい環境が整備され、自分の周りが学びにあふれていると感じる市民の割合は、現在より増加することを定めています。現在までの進捗状況につきましては、資料6の右上に記載しております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました、これについて、委員の皆様方からご質問ありませんでしょうか？</p>
委員	<p>アンケート調査の対象、実施方法等を教えてほしい。</p>
事務局	<p>基本計画策定時以降、毎年、市民1,000人の方を無作為抽出という形で調査しております。このアンケート調査では、生涯学習活動だけではなく、文化スポーツ・地域づくりの質問等まちづくり部全体の取り組みについて、幅広くとっておりまして、年齢は20歳以上の方を対象にしております。ちなみに回答率は40%くらいです。毎年同じ質問で、経年変化を見ております。</p>
委員	<p>集計いただいたものを市のホームページとかで、公表されていますか？</p>
事務局	<p>結果については公表出来ておりません。</p>
委員長	<p>他にありませんか？無いようですのでここで一旦司会を事務局へお返しいたします。</p>
事務局	<p>それでは、続きまして【11.講話】に移ります。</p> <p>生涯学習基本計画では、知識循環型生涯学習を基本目標として掲げ、自分たちの課題は自分たちで考え、話し合い解決していく地域づくりをめざしています。そのためには、それぞれの地域で学習活動が活発に行われ、人が育ってい</p>

<p>岡田先生</p>	<p> かなくなくてはならないと考えています。そのためには、「どんな人がいなければ ならないのか」「どんな人が育っていけばいいのか」そして、「どのような地 域にならないといけないのか」、といった具体的なイメージが必要だと思います。 本協議会では、「生涯学習を実践に生かす地域づくりの推進」をテーマと して、皆さんのお考えをまとめさせていただき、来年度以降の方向性を確認し たいと考えております。 </p> <p> 本日は、「地域における社会教育の推進」と題して、岡田先生からお話をお伺 いし、振り返りを含めて後ほど皆さんと話し合いたいと思います。 それでは、岡田先生、よろしく願いいたします。 </p> <p> 地域における社会教育の推進というお題をいただいておりますので、ざっくり と、文部科学省が社会教育をどのように捉えて動いているのかということの説明 しながら、我々、地域の者が、どういう期待を背負っているのかと、一というお 話をさせていただきたいと思います。文部科学省も色々組織変更をしまして、 2018年総合教育政策局を置きました。その前には生涯学習政策局という筆頭 局だったのを総合教育政策局にしました。生涯学習の理念が教育基本法に掲げ られたので、名前は変えたが、生涯学習を推進していくという気持ちは変わら ない。これまで大きな課題であった、学校教育と社会教育の縦割りを克服し連 携を進める所にぐっと寄っています。コミュニティ・スクール、地域学校協働 活動を総合教育政策局でまとめて一緒にやりましょう。というふうになってい る。その上で社会教育のいっそうの進行が必要だと謳いました。ほぼ文部科 学省の組織の中から社会教育という言葉が消えていたので、体制は変わしまし たが社会教育には力を入れますよという宣言です。 </p> <p> それを所管するのが生涯学習推進課と地域学習推進課と共生社会学習推進課の 3課です。生涯学習推進課は生涯にわたる学びを推進します。大学とか専修学 校のリカレント教育やキャリア教育も進めていきます。広く生涯にわたる学び を補完するのが生涯学習推進課です。 </p> <p> 地域学習推進課が、地域における学びを推進します。ここで、実は、学校や家 庭との連携を推進します。青少年教育、家庭教育支援等です。コミュニティ・ スクール、地域学校協働活動を所管します。男女共同参画共生社会学習安全課 は、共に生きる社会的包摂とか、障がい者がきっちと学べる機会をつくりま しょうと言うようなこと、また、男女共同参画そういったこと推進します。こ ういう形で進んでいます。全体の生涯学習を進めるということと、学校と地域の 連携に特化して学習を進める。社会的包摂によって様々な方がきっちと学べる 機会を作ります。というところで社会教育を進めましょう。というのが文部科 学省の意図であります。2018年に中教審が「人口減少時代の新しい地域づく りに向けた社会教育の振興方策について」というのを出しておりまして、そこ でも、学びへの参加ときっかけづくりの推進、多様な主体と連携・協働の推 進、多様な人材の幅広い活躍の促進というのを言っています。ちなみに先ほど 事務局より説明していただいた丹波市の生涯学習基本計画は、平成27年です ので、これよりも先に出来ています。ほぼここで謳われておりますことは丹波 </p>
-------------	--

市の基本計画に盛り込まれております。人づくりをしてまちづくりをしていくという方向性は、丹波市の方が先取りして、作っています。社会教育の目指すものは、社会教育を基盤とした「人づくり」つまり地域づくりですけれど、丹波市が進めている生涯学習基本計画が中教審でも必要だということが言われています。新たな社会教育の方向性としては、開かれてつながる社会教育を実現しましょう。住民の主体的な参加、きっかけを作って、行政はそれをネットワーク化して後押しして、地域の学びの活性化をする「人材」を育てて活用していくまさに丹波市の生涯学習計画が述べていることを、文科省も言っている。資金もこれから必要ですので、新たなクラウドファンディングとか、いろんな形で行政だけでは届かないところもあるからそういうところも取り組んでくださいよと中教審が言っている。こんな中で文科省の総合教育政策局が一番力を入れているのが、「学校と社会の連携」でして、地域と学校の連携協働体制構築事業というのが来年度令和5年に概算要求100億円としている。ここに予算を費やそうとしています。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を基に地域づくりをしていく。学校教育・学校の子供たちを育てることに、地域もかかわってください。それとともに地域もつくっていきましょう。と言う方針になっています。コミュニティ・スクールと地域学校協働事業を一体的に推進する自治体の財政支援に100億円を乗せている。ここが実は課題なのです。丹波市も先ほど委員の方々が、お勤めのお仕事を紹介いただいたわけですが、地域と学校の協働活動推進員もしているし、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員もしていると言われました。学校運営協議会と協働活動をする組織を一体的に推進する。この一体的にということが良く分からない。同じ人がすることが一体的なのか？そうでもなくて、役割が違うので役割が違うのに一体的とは、どういうこと？色々模索しているところです。奈良市でもそういう話が出ていて、奈良市はすでに、協働活動をする本部を小中学校に作った。令和元年からコミュニティ・スクールを全校に導入した。2つそろったのですが、さてこれを一体的に推進すると文科省は言われるわけですが、どうなれば一体的ということでしょうかという問題が出て来ています。地域性はあると思いますが、これが正解ですということはないのですけれど、文科省は車の両輪でと言ってきました。両輪だから一体的なのかよくわかりませんが、ざっくりと言いますと、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と地域学校協働活動を推進する地域学校協働活動推進本部で協働活動をする人たちがいるわけです。学校運営協議会は地教行法で定められている委員会なので、法律上設定することが努力義務とされていることから各都道府県市町村でコミュニティ・スクール（学校運営協議会）が導入されているのですが、法律で定められていて、この学校運営協議会は、学校のカリキュラムでどういうふうな教育課程をもって進めますということを校長はその協議会に報告して了承を受けなければならない。学校でどんな教育をしていくか、計画を立てたらそれを地域の代表である学校運営協議会のメンバーに、「うちの学校今年はこの教育していきますのでよろしくお願いします。」と問い合わせ、そこに地域の人達は意見を言える。そういう関係での組織。だから、学校運営協議会は学校がやろうとし

ていることはこういうことだな、そこで、地域の人から見て、うちの小学校の地域では、もう少しこういうことをやってもいいのではないですか？出来ませんか？という意見も言える。そこで学校が目指すものというのを作っていく。学校が目指しているものというのは子供をどう育てていくか？どういう子供を育てたいのか。というところをこのコミュニティ・スクールで協議して、それが解ればそれに基づいて、地域学校協働活動が展開する。学校が求めているのはこういうことで、それを地域も同じように求めていることであるから、それを学校だけでは出来ないから、地域が支えて、学校が出来ない部分を、地域の人力を借りてやっていきます。それを担うのが地域学校協働活動ということです。

地域の人達の力を借りて、子供たちを地域の活動に参加させる。学校の中に地域の人達が入ってきて、先生方でも教えられないキャリアの仕事の事とか色々なことを地域の人達が子供らに教える機会を作りましょう。というのが、地域学校協働事業で、それを一体的にやりましょう。やってくださいね。そこにお金をだしますよ。いまこうした形で、社会教育が進んでいっているということです。

地域学校協働における住民の立ち位置は、この活動において地域住民は何を求められているか？元々生涯学習者の成果を学校へ還元するということから、文部科学省生涯学習政策局が、学校支援地域本部事業を始めたのです。生涯学習政策局が始めたから生涯学習政策です。つまり、地域で人々は色々な学びをしていますよね、これを子供たちに還元してください。大人の学びを学校へもって入って還元してください。そうすることによって学校と地域が密着して生涯学習している大人たちも自分たちが学んだことを伝えるという成果の活用にもなるからこれを進めてください。これが学校支援地域本部事業と呼ばれております。生涯学習というのは人生を豊かにしましょう生きがいを作りましょうということで、日本では1980年代以降に生涯にわたって学び続けることが自分の生きがいになるし、学びとして人生が深まっていったらこの学びを支援に向けてください。学んだことを還元してください。まず最初に学校の支援を期待する。それが今度支援から協働へと変わっていく。生涯学習者の活動による地方創生、支援でなく一緒にやってください。生涯学習政策局の事業だったのですが、ここへ至るのには東日本大震災で、つながり持つことが大切だといわれ、中教審で青少年の体験活動をしなければいけないとも言われた。何よりも大きかったのは、2014年に日本創生会議で日本は人口減少時代に入り、このままでは地方都市が消滅しますよという方向が出され、ここから方向転換した。すべて日本中が地方創生にターゲットを絞っていった。先ほど、まなびの里づくりで、里づくりだと意見があったのですが、丹波市では、いつでもだれでも学んで支え合うそういう里をつくりましょう。これは間違いないのですが、今や、里が無くなるかもしれないから、里を維持するためには学習が必要ですというふうな感じで、丹波市も人口減少の波を受けますから、それを支えるためには学んで支え合って里を維持していかなければいけない。そういうふうになっています。中教審も「新しい時代の教育で、地方創生の実現に向け

た学校と地域の連携、協働のあり方を模索してください」といっている。総合教育政策局に改編して今までは、初等中等教育局でコミュニティ・スクールを推進していて、協働活動は生涯学習政策局が推進していたのを一つの課にまとめて学校と社会教育を一体的に進めましょうというふうに腰を上げたということです。地域の人達は、はじめは自分が学んで生きがいを持つのが生涯学習だった。それは普及してきました。民間でも、色んな学習事業はあるから自分自身の学習だったら自分でお金を出して出来るようなことが広がってきましたよね、では、行政が皆さんに生涯学習をしていただく限りは、それはだれかに還元していただくような生涯学習をしてください。循環型生涯学習を目指す丹波市はそこから出発している。一人一人が学ぶことは重要。生きがいをもって豊かな人生にしていくことは重要。それを人のために役立てるような学びに展開して行ってください。次には学びを通してまちを維持していきましょう。まちづくりにつなげて行ってください。人口減少には自然減と社会減がある。自然減は生まれる子が少なく人口が減少していくそれが一番大きな理由です。2.08 無いと人口は維持できないです。2人の夫婦から2人以上産まないで維持できない今のところ1.4位ですね、それでは減ります。まち・ひと・しごと創生会議で人口ビジョンをつつて若者に結婚しましょうよということもいっている。もう一つは社会減、流出です。丹波市で育ってこの自然豊かな中で育っているんだけど、高校までは丹波にいるけれどそれ以降は仕事の関係で都会に出たり、大学のために都会へ行ってそのあと帰ってこない。だから、そこに大人と子供が社会教育・学校教育連携して子供たちと大人が、丹波市で、いいまちですよ。こんなところに暮らせて楽しいよね、きっと丹波市に将来皆さんも帰ってきて、ここで子育てして暮らせるといいよね。子供たちがそう思ってくると帰ってきてくれる。子供たちを地域ぐるみで大人たちが育てる。学校の時にお祭りに行って地域のおっちゃんおばちゃんたちと活動したね。というのが思い出になっていて、愛着が出来て丹波にお世話になったという気持ちが出来て丹波に住みたい。と思ってもらえる子を増やしていく。地域の人達、学校の先生もちろん参加しますが地域学校協働活動をする人たちがそこを支えていく。地域住民の学びを、学校運営を通じた地域づくりとしてそこが一つの柱になっている。学校と共に学びを広げて、里づくりをしていきましょう。文科省もそれを押している。すべてが学校とリンクしたものでないといけないかということそんなことはありません。独自の大人だけの学び、学校とは別の子供たちの学びというものもありますからそれも推進していかなければならない。そこにかかわる住民の皆様方は共同学習という形で、一緒に学びましょう。大人同士で学ぶにしても、学び合い話し合いをするような学習を心掛けていく成人の学習。子供を支援するというのは学校の先生に指導を受けながら地域の人達も子供に接していく。一方で成人同士の学び合いというものもあるし、大人を指導していく大人の学びを支えるということも私たちは学んでいかなければいけない。アダルトエディケーションという概念ですね。大人の教育ということについてもう少し深く考えるアンドラゴジーという考え方も出て来ています。大人と子供は違うから大人の学びはただ単に知識を教えるだけではダメで、もち

ろん子供たちも同じですが、例えば地域の自治会、市民活動センター等で学習会をする。そういう学習会も、ただ講師がしゃべって、ご説はごもつともですと言うような学習で終わるのではなく、グループ活動をするとか話を通じて私たちは何を考えていったらいいだろうか？と言うようなグループワークをして、自分たちが考えるような学習が求められている。そういう話し合いをしながら私だったらこんなことできそうだから、私たちが企画してやってみましょうかという人が出てくることによって活性化していく。そういう学びを進めていく必要がある。生涯学習といったときに、何か与えられて自分が出来ることだけでなく、人と関わって相談して今何が地域に必要なのだろうか、何をしたら楽しいだろう、人を巻き込むのはどうしたらいいだろう、ということを考え、学習活動を地域に展開する必要がある。

次に、新しい公共ですが、今までは公共というのは行政が支えていたから行政にお任せしますよと言っていたのが、行政も手が回らないですよということから、自分たちが何とかやりましょう。みんなで知恵出してやりましょうと。社会関係資本（ソーシャルキャピタル）にもとづいた人間関係を作っていくことが、社会を支えていきます。それと、青少年の社会教育（ユースサービス）なんかも、子供たちを学校だけでなく学校の外でも子供の学びやスポーツというのも地域で支えていきましょう。これらが学校ともかかわりながら学校とは別のところでも地域の住民が学んでいる。

昨日も学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的にというのは何でしょうねという話をしていたのですが、学校運営協議会に参加している人たち委員さんは、教育のプロである学校の校長先生から教育課程で、うちの学校でこういうことをします。と言われた時に地域の人が意見なんてできませんよ、と言われます。その通りなのですが、だけど、かみ砕いて、学校がやろうとしていることを読み替えて、それでは地域で何が出来るだろうと考える。例えば、農業体験をさせたらどうだろう？農業体験するというのと学校が求めている子供像というのは、どうリンクしていくのか子供が農業体験をすることで学校が言っているここにつながるよという置き換えを、学校運営協議会の委員はしなければいけない。そうなる今までやっていたことがより明確になる。そういう形でコミュニティ・スクールと地域協働活動を一体的に運営するということがかなーという話を昨日もしていたんです。ここで中心になって生涯学習、学びを推進していきましょうということは、そういう役割を担っている。自分たちの学びを自分たちで自己完結するのではなくそれをどのように人と結びつけていくか、自分たちのやっている活動がどういう意味を持っているか、地域をどう変えていくのかということを考えて、活発な活動につなげていく。そうすることによって地域をつくっていきましょうという方向にシフトするということです。学校も今非常に苦勞しておりますから学校からも支えてほしいという期待がありますので、まずはそれに応えていく、自分たちが子供のころを思い出してこんなことさせてやりたいなーということに取り組んでいく。その意味を学校と共に考えていくことだと思います。以上です。

事務局	<p>ありがとうございました。地域住民の皆様の学びを、学校運営を通じた地域づくりに生かしていく還元していく、また、学校でなくても皆さんの学びについては、地域づくりのために生かしていこうかというようなことについて非常に詳しく教えていただきました。それでは、ここから次第の 12. 協議事項に移らせていただきたいと思います。</p> <p>先ほどの岡田先生のお話について、ご質問、ご意見感想をお願いいたします。</p>
委員	<p>学校運営協議会に入っています。学校長の方針に宜しいかと言われてもハイそうですねとしか答えられないです。</p> <p>社会教育法が変わったのですよね？変更になって運営協議会というものが出来たと思うのですが社会教育法が変わったのか分からないもので、それと、子ども基本法が出来ましたね。これによって学校教育法が若干変わる気もしますし社会教育法も変わるのですか。</p>
委員長	<p>先ほど言いましたように、このコミュニティ・スクール（学校運営協議会）というのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律上に定められています。教育委員会について定めている法律で、その法律に、学校に学校運営協議会を設置すべし（努力義務）というように法律改正された。一方社会教育法はそこに、学校を支援する人を育てて、そういう役割を担う人を設置しますよ。先ほど社会教育士という資格をお持ちの方がいらっしゃいましたけれど、元々社会教育主事という資格があったわけですが、これは教育委員会の中に勤めていないと、活きなかったのですが、改正されて、民間でも名乗れるように社会教育士となった。こういう人が、学校と地域の協働活動を指導するような立場として、役割を担うようにしたらどうでしょうか？それに予算をつけますよというのが今の文科省の考え方です。だから社会教育もこれまで通りの活動を推進しながら、より学校との連携を強化するように法律が変わった。ということです。</p>
委員	<p>お話をお聞きしますと学びということですから自発的な行為を求めているのではないかと思うのですが、今の話は、教育という、教えるという反対側の話が主になっていて、そういう部分が私達にはちょっと解りにくいなというふうに思いました。文科省は色々考えるのでしょうかけれど、丹波市は丹波市でやはり、学びということについて、もう少し学ぶ人を増やしたいということであるのならば SNS なんか丹波市は上手に活用されているので、ZOOM などを使って通信教育などがあるわけです。しかしサテライトの教室がないので結局、都会に行かないと実際の授業を受けられない。一方で丹波市には、小学校の空き教室がいっぱいあるわけです。NPO なんかにも貸し出して、通信教育をやっている大学と提携してサテライト教室なんかをこしらえれば？通信教育で一番面白くないのは、議論し合うことがないところだと思う。近くの人だと通信教育を受けて、議論し合い続けていけるのではないかと思うのですが。</p>

委員長	<p>教育か学習かということは、なかなか難しく、元々生涯教育と言っていたのが、生涯にわたって教育されるのかというイメージがあって段々と生涯教育ということが無くなっていった生涯学習になってきた。自分が主体的に学ぶのだっていいことだからと受け入れられました。ただ学ぶというのは、受け取るだけでなくて、人と共有するとか伝えることも学びにはあって、大きな意味を持っている。無理やり教えられるというのではないけれど学んだことを共有していく。もちろんそこには主体的な学びがある。webの授業等色々可能性があります。コロナで一気に広がっていったと思います。学校もギガスクール構想で、子供たちはすべてPCを持つようになっています。子供はどんどん進んでいきます。社会教育の方が遅れている。これをもう少し活用していくというのはその通りだと思います。例えば私の大学では、生涯教育専攻というところにはありますが、社会教育主事任用資格を出しています。設置してから25年になりますが、卒業生もだいぶ多くになりますが、社会教育主事の任用資格をもって教育委員会に採用されたものもおりますが、一般の企業で働いているから任用資格を持っていてもあまり役に立っていない学生もいます。いま、この社会教育主事任用資格を持っている人が4科目8単位追加とれば社会教育士の資格が得られるので、天理大学ではwebでオンデマンドの授業をしています。大学まで通ってこなくていいです。卒業生は全国に散らばってますから、時間が空いた時に視聴してレポート書いて単位を取得する。卒業生だけでなく、一般の人も参加できる。そういう学びの形がどんどんできています。どこかの大学と連携して、やるというのもありますし、丹波市の中でも空き教室があって自宅でもオンデマンドとかで、いろんな形で学びの機会というのは作っていい。ただ、いまおっしゃって頂いたようなアイデアを共有しながら出来ることをしていくというのが、この会で考えていけたら良いのではないかと。</p>
委員	<p>私は今年から丹波市に暮らし始めて社会教育士として先ほど岡田先生のおっしゃっていた地域学校協働活動の支援をNPO法人として、講座事業という形でさせていただいております。担い手として大人の学びを続けることが大事だと思う。丹波市では、現役世代(20~40代)の若い人が学ぶ機会がないわけではないが情報が届いていない。学びながら対話をしながら話すような機会がまだまだ少ないということで、我々もずっと講座をやっているのですが必要とされる人に届かない。生涯学習は大事だよということ、話すのですが、自分には関係ないと、どうしても感じてしまう若い人がある。学んでないことはないと思うのですが、情報が届いてないと思う。</p>
委員長	<p>私は奈良市にかかわってやってきていますが、最初はコーディネーターさんたちを奈良市も募集して、学校の活動を支える役割を担う人たちを養成していったのですが、5年間勉強会をやっていました。コーディネーターで何したらいいのという人たちと勉強会して、あそこの学校はなかなか面白い取り組みをしている。こっちの学校はどうだろう。うまくいっている所の真似をしていったらいいのかなと、みんなで情報を集め合っていくのですが、話をしていると</p>

	<p>かなか真似はできない。その学校にはその学校の風土とか地域があるから、その学校だからこそできることがあって、それをうちの学校に持ってきてこれで出来ますというわけにはいかいかなーと、というのが、コーディネーターさんたち解かってきて、自分たちで考えて、自分たちの地域を見つめ直して、こんなことできるというのを探してやらないといけない。とすると、コーディネーターはどういう役割だろう、ボランティアさんとどう違うの、というところをずっと話し合いながらやっていって、奈良市にはコーディネーター研修をきちっとやってくださいとお願いして、勉強会は私がやりますから、市としてコーディネーターの研修をやってくださいと言ってきました。今も年5回学校に関わっている人たちを集めて研修会を奈良市はしています。</p> <p>一番の課題は活動が始まって15年になるのですが15年選手が沢山いることです。新しい血が入ってこないことです。後継者ですね。次の若い世代のコーディネーターをどう確保していくか。これが課題です。何処もそうです。そういう人たちをベテランコーディネーターがどう勧誘していくか。仲間づくりをして、声かけて、一本釣りで地域の人を引っ張ってきて、一緒に学びながら進んでいきましょう。ということですね。奈良市の課題は、コーディネーターはそうやって自分たちの役割が解ってきたのですが、ここへきてコミュニティ・スクールというのは出て来て、コーディネーターさんたちの中にも、学校運営協議会の委員をしている人たちもいるわけです。地域活動をして、コーディネーターの役割をして、この二つをどうしたらいいのという課題が出て来ています。そこで、また、コミュニティ・スクールの勉強会をしようかということになりました。いろんな人が集まって自分たちで話し合うというのが非常に大切である。もちろんそのところにきっちとした講義一仕組みはこうなんですよーというレクチャーを受けて、学ぶことも必要ですけど、経験を持ち寄ってうちはこんなことやっているのだけれどこれでいいのというのを、お互いにつき合わせながら、というのを。そういう学びが大人は出来るのです。経験をしてきたものを、持ち寄って、そこから、ブラッシュアップしていくという学びができるので、是非そういう学びの場を創っていけばいいのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>社会教育委員は丹波市内に15人いる。テーマを決めて地域学校協働活動を地域にとって学校にとって何が大事なのかということ、を考えている。</p> <p>学校支援から、地域と学校が協働してやっていく話、大きなところと思うが、協働という言葉、丹波市では自治基本条例をつくる時に、参画と協働ということを議論されて、協働についてはもっともっと理解してもらわないといけないという話でした。協働という言葉まだまだ浸透してないですね。その辺も、合わせてやっていけたら良いとか、あくまで、行政の施策云々をいうのではなく、丹波市として、何処に何をしていけばいいのかという、そういう議論の場であってほしいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>文科省がそう言っているから丹波市も習ってそうしましょうと言っているのではなく、大きな教育の流れはこうなっていますよ。それを丹波市では、どうい</p>

委員	<p>うふうに、変えていって、丹波市は、なにが課題なのかということを見つけていく。丹波市らしさを創っていく。探していく。丹波市のよさを見つめてそれを、共有していく、子供たちにそれを伝えていく私たちもここに住んでいる限り、一緒に暮らしていくにはどうなったらいいか、というのを考えていくということです。</p> <p>人づくり繋がりづくり地域づくりということだと、地域と学校が一緒にやる方向性、誰かに還元する生涯学習、とお聞きしました、私の立ち位置は、丹波市俳句協会の副会長をしています。地域ボランティアとして、俳句の指導に学校に行く。市の働きかけもあって、最初は3校くらいから、丹波市の小中学校の3分の2くらいになり、丹波市俳句協会の青春俳句祭に応募する俳句を作るといことで、どの学校も指導に来てほしいというようなことで、今俳句をしているものが学校に伺います。子供には新鮮で、教師の方々も喜んでいただいで、私達もやりがいがある。行くのは大変だが、地域と学校が一緒にやる枠組みを丹波市が創っていただいていることで、私達も学校へ行ける。還元する生涯学習になっている。ただ、後継者づくりが難しい。良いことをさせていっただいで、お膳立てをしていただいているから、これでいいかなと思っていたが、私達も後継者づくりに貢献していかないといけないと思いました。</p>
委員長	<p>総体的に高齢化してくるのですが、案外声をかけてもらうのを待っているという人もいるので、一緒にやりませんかとか、携帯スマホを、子供たち使うのだから、短い表現で、的確に感情を表す俳句などは、もしかしたら、今の人達に、合っているのかもしれないですね。そういう子供の発想みたいなものを取り入れながら、こんな俳句もあるみたいなことで、若い人を呼び込むとか、今までのやり方ではないことを考えて、新しい人を入れようと思うと工夫が必要だ。今やっている人が楽しいというのが一番ですが、ますますお元気に活躍いただきたい。協働というのはなかなか難しい、学校を支援するって、学校の先生方も最初、何を支援してもらったらいいのか？挨拶と花壇の見回りくらいか？学校が何を求めているのか分からないので支援のしようがなかった。こんな事できますよと、いう話から、今は、コミュニティ・スクールという中で学校も地域に頼ってください。学校で出来ないことがあったら地域でやるのだから一緒に協働で、それは学校と地域の関係だけれど、行政と、色んな所で一緒にやりましょう。どちらが上下というのではなく、一緒にやっぺいこうと。なかなか協働で難しいですね。</p>
委員	<p>基本計画策定にあたって生涯学習の概念を解かって無くて、この場で学ばせていただいた。趣旨のところを書いてあるのでわかりやすいのですが生涯学習の概念の中には学校教育も社会教育も含まれているということが前提にあつてこの場で話し合えればいいのかなと思います。ですので、社会教育にフォーカスした話題であっても、学校教育と絡んでいくというような共通認識がこの場で持てたら良いのではないかと。南小、氷上中でも運営協議会の委員をしています</p>

地域学校協働活動を推進していく立場でも活動している。学校教育現場では、コミュニティ・スクールというものが、学校現場そのものの課題解決でもあり
面前の子供たちの教育についても、課題解決に直結する手段だと思う。社会教育では、地域学校協働という概念自体が、これからのまちづくりの手段として
いま、トレンドになっている。地域づくりの有効な手段として、地域学校協働
があるのではないか。地域学校協働という手段を使って、地域づくり・まちづ
くりを進める必要がある。協働というものをどのようにすり合わせていくの
か、学校の中で、地域学校協働と言っても、子供に目が向くが、その子供たち
がこれから巣立っていく社会が、どんな社会どんな地域だったらいいかを、
みんなで協議する必要がある。こんな社会で子供たちに生きていってほしいと
いうビジョンをみんなで共有した中で、今、目の前で自分たちが抱えている課
題を先送りしない。課題をみんなで解決していくというのが、地域学校協働の
本質でもあり、コミュニティ・スクールの本質でもあるので、それを、学校現
場も地域側も捉えて協働する。これまで、地域と学校はモノの貸し借りみたい
に、学校の先生が地域にお願いします、地域が学校の世話をしなければいけ
ない、というような、支援の仕合ではなく、協働というのは先のビジョンを見据
えて、みんなで何をしていくか自分たちが抱えている課題をどれだけ共有し合
えるか

社会教育的意義づけをもって既存の取り組みの中で出来れば社会教育の重要な
所が学校教育の中でも持ち込まれていくのかなと思う。南小学校では、3回の
定例会の中では、学校運営方針の承認などやることは決められている。議論出
来きれないところもあるので、皆さん手弁当で「コミスクオフ会」という形
で、オフ会開いて、そこに関わる方々を呼んできて、地域学校協働の部分で、
学校のコミスクと、どこまで協働できるかということを模索する機会を持って
います。協働するにはやっぱり話し合いが必要になる。南小学校では、こんな
形で進めています。

委員長

学校の先生と地域の人達が一緒に活動するのが協働でなくて、学校も地域も子
供が成長してほしいというところが一緒なのです。こんな子供に育てほしい
というのが、学校の授業の中でも、地域の活動の中で到達してもいい訳です。
それが協働なのです。目的を定めてそこに向かって話し合いながら、努めてい
くことが協働なのです。地域をどうしたいのかといったときに、色んなセク
ションがあってそこがその目標に向かって、皆が動かして行って、それが達成
されれば協働になります。「オフ会」大変だと思います。クラブハウスってご
存知ですか、声だけの音声アプリです。コーディネーターさんたちと、これ
を使って金曜日の夜9時半から月2回話し合っています。先ほどのオンラインの
授業とか、通信教育の話もありましたが、色んなツールが使えますが、そう
いうものを使って、話し合いをすとか。ZOOMもそうですね。コロナで皆さん
に広まりましたね。ZOOMは顔出さないといけないから気を使いますね。クラ
ブハウスだと声だけだから気軽にできる色んなやり方があります。難しく考え
ずに、課題をもって、何か解決できないだろうかと日々暮らすというのは楽し

	<p>いと思えば楽しい。暗くならず、どうしたらいいと気軽に話せるような雰囲気がある、こうしようよという人が出てきたら、それを実現するためにどうしたらいいか、みんなに、力を貸してくれると言うようなサークルになればと思います。</p> <p>今後、今日お話しいただいたような、ご意見もありました。この会議がどのようにあったらいいのかというご意見も頂いたので、事務局としてもこの協議会で、こんなことを進めたいという考えもあろうかと思いますが、今後の予定について教えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。大変貴重なご意見をいただきました。</p> <p>(2) 丹波市生涯学習関連事業ですが、大変申し訳ないのですが、本日は時間がございませんので、資料の説明のみとさせていただきます。</p> <p>まず、資料⑦をご覧ください。こちらは、市の各部署が行っている生涯学習関連事業調査となっており、左側には、事業名、内容、令和3年度の評価と課題、そして、令和4年度の取組みの方向性について記載しています。また、資料の右側には、その事業は基本計画のどの施策にあてはまるのかということをおで表記しています。</p> <p>前後しますが、資料⑥をご覧ください。こちらは、先ほどの資料⑦の事業のうち、まちづくり部および教育委員会の事業の主なものを抜粋して、基本目標ごとにまとめたものになります。</p> <p>資料⑥の上段の評価欄では、3つの基本目標ごとに指標を示しており、この指標は、毎年住民アンケートを実施した結果を記入しています。</p> <p>P 1 まなび人を増やそう 説明 P 7 まなび力を育てよう 説明 P 13 まなびの里をつくろう 説明</p> <p>コロナ禍で、本来続けなければならない地域課題のための活動なども、一律に中止や延期されたこともあります。皆さんの生涯学習活動の再開とともに地域づくり活動も感染対策をしながら再開され始めており、この指標も上がってくるのではないかと見えています。</p> <p>本日は、この件についてのご意見をいただく時間がないので、大変恐れ入りますが、資料⑧の意見書にご意見や事業推進についてのアドバイスなどを記入いただき、10月21日までに事務局までご提出いただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>

委員長	<p>今日は色々と、私の講話に皆様のご意見をいただき考えさせられるところがありました。皆さんの学びが深まっていたらいいなと思います。みんなで議論しながら、ここでの学びが深まって、丹波市の学びに広がっていくような会議になればいいなと思います。それでは、本日の議事は終了となります。</p>
事務局	<p>第2回の協議会につきましては、本日持ち越しております、資料⑥の生涯学習関連事業の各担当課からの説明や意見交換をさせていただきますので、本日お持ち帰りいただいた資料⑧意見書の提出を10月21日（金）までをお願いいたします。</p> <p>また、生涯学習を実践に生かす地域づくりの推進につきましては、次回も引き続きご協議いただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、次回協議会の日程ですが、概ね1～2月頃の開催としたいと考えております。可能であれば日中の時間で設定したいと思います。</p> <p>皆様のご予定はいかがでしょうか。委員長、副委員長さんと日程調整のうえ進めさせていただきます。ありがとうございました。委員の葛木さんの方から情報提供があるようです。</p>
委員	<p>市民活動支援センターで、地域づくり講座を開催しています。積極的に参加してください。その他にも地域学校協働活動に対しての講座をしています。定員に達してますが、もし今日の議論を聞いて、参加したいなという方がありましたらご連絡ください。</p>
事務局	<p>事務局からは以上であります。他にご意見のある方いらっしゃいませんか。それでは、本日副委員長が欠席ですので閉会の挨拶を事務局の方で行います。これを持ちまして、第1回丹波市学びの里づくり協議会を閉会します。大変長時間ご協議いただきましてありがとうございました。</p>